



厚沢部町 農産物生産組合あっさぶ農匠 『規格外品のかぼちゃをシンガポール等へ』

【主な品目】

かぼちゃ

【主な輸出先国・地域】

シンガポール、マレーシア、香港、マカオ

【輸出に取り組んだ経緯と概要】

- ◆ さがらマロン（品種名：九重栗イレブン）のブランド化を目指し、7戸の農家で栽培開始。現在は相良一之氏を代表として10戸の構成員で取り組んでいる。国内では需要が少ない規格外品の小玉が海外では需要が高いことに着目。2017年（平成29年）に香港で試験的に販売。
- ◆ GLOBAL GAPの認証を取得し、低農薬化等の作物の品質管理を向上。

【輸出実績】（令和元年より輸出開始）

	輸出額(万円)	輸出量(t)	出荷時期
令和元年度	112	7.5	9月～3月
令和2年度	272	20.0	
令和3年度	260	17.0	

※コロナ禍により計画を大きく下回った。

【輸出に取り組む際に生じた課題及び対応】

- 国内需要は「4～8玉／10kg」が主流であり、海外市場では「9玉／10kg」以下の小玉（規格外品）を好む傾向があることから、規格外品においても有効活用していき、全体での収益性を図ることが課題。



試食販売の様子

【今後の課題・展望】

- 輸出向けの生産量を確保するため、構成農家におけるGAP認証の取得を促進。
- 通年出荷体制を構築するため、生鮮商品として利用できないかぼちゃを原料としたペーストの商品化。
- GFPグローバル産地づくり推進事業を通じて農業の収益性を向上。
- マーケットインによる商品を開発。
- 2022年（令和4年）に輸出目標金額3,630万円、2023年（令和5年）に5,680万円を目指す。



長期保管実証実験